

南北首脳会談、米朝首脳会談の動きを歓迎し、 北朝鮮核・ミサイル開発問題の平和的解決を求める

2018年3月15日 日本平和委員会

一、3月6日、文在寅韓国大統領の特使と北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長が会談し、南北首脳会談を4月末に開催することで合意した。そして、軍事的緊張の緩和と緊密な協議のため、南北首脳間のホットラインを設置し、首脳会談に向けて実務協議をすすめることで合意した。

また、韓国側の発表によれば、「北朝鮮は朝鮮半島非核化の意思を明確にし、北朝鮮に対する軍事的脅威が解消され体制の安全が保障されれば、核を保有する理由がないという点を明白にした」。そして、「北朝鮮は非核化問題の協議と米朝関係正常化のため、米国と虚心坦懐に対話する用意があると表明した」。さらに「対話が続く間、北朝鮮は追加の核実験及び弾道ミサイル発射実験などの戦略的挑発を再開することはないと明確にした。同時に北朝鮮は、核兵器はもちろん通常兵器を韓国に向けて使わないことを確約した」とされる。

これを受けて、3月8日に韓国大統領の特使が訪米し、トランプ大統領に金委員長との会談内容を報告。韓国大統領特使は、トランプ大統領が「恒久的な非核化実現のため、5月までに金正恩氏と会談すると語った」と発表した。その後、トランプ大統領は、「金委員長が非核化にコミットし、米国との平和を望んでいる。…今後、状況を注視しつつ、金氏と会う用意がある」（3月9日の日米首脳電話会談）と述べた。

一、これら一連の会談と発表内容は、北朝鮮の核・ミサイル開発問題を平和的に解決する方向への重要な前進であり、この問題の対話と交渉による平和的解決を一貫して求めてきた私たちは、心から歓迎する。そして私たちは、南北首脳会談と米朝首脳会談が実現し、危機打開、緊張緩和、非核化、平和体制の構築につながる成果を生むことを、心から期待する。

関係各国は、対話と交渉を成功させ、朝鮮半島の非核化とこの地域の平和実現のために、誠実に力を尽くすべきである。軍事的緊張を高める一切の行動を慎み、戦争回避のためあらゆる努力を行うべきである。これまでの教訓にもとづき、北朝鮮が非核化への措置を確実に実行する抜け目のない合意をつくりだし、北朝鮮は誠意をもって実行すべきである。アメリカは、先制攻撃・武力行使の選択肢を排除すべきである。

一、この一連の南北、米朝間の対話・協議の中で、対話を否定し、アメリカの先制攻撃を含めた「あらゆる選択肢」を支持し、軍事威嚇行動に加担してきた安倍政権は、完全に取り残されている。この「合意」を生み出す上で、韓国の文政権がオリンピック・パラリンピックを機会に緊張緩和と南北交流・対話を積極的に追求したことが、大きな役割を果たしてきた。ところが安倍政権は、この努力を「微笑み外交にだまされるな」などと冷笑し、逆に米韓合同演習の実行を迫るなど、南北対話にブレーキをかける態度に終始してきた。トランプ大統領が米朝首脳会談を受け入れることを表明した際にも、蚊帳の外におかれてきた。この一連の経過は、安倍政権の対話拒否、圧力一辺倒の姿勢が完全に破たんしたことを示している。

私たちは安倍政権に対し、軍事威嚇行動への加担を止め、憲法を活かして南北・米朝首脳会談が非核平和の朝鮮半島と北東アジアへ向かう実りある成果を生み出すよう、積極的役割を果たすことを求めるものである。また、自らも核兵器禁止条約に加入し、関係諸国に同条約への加入を求めることを求めるものである。